

## 土壤汚染(どじょうおせん) | Soil pollution

工場からの廃液や、農薬散布などにより土壤中へ、カドミウム、鉛、銅などの重金属イオンやシアン、ポリ塩化ビフェニル(PCB)などの化学物質がしみ込み蓄積されて、人畜の健康や農作物の生育に阻害をもたらすこと。神通川流液に発生したイタイイタイ病の発生源とされているカドミウム汚染やメッキ工場からの六価クロム汚染などはその代表例である。土壤汚染は大気汚染、水質汚染と並んで典型的汚染の代表例とされているが、特に土壤汚染では大気や水質汚染と違って様々な公害物質を吸着するので、汚染物質が移動、拡散することが少なく、同じ場所に蓄積されて、長い間汚染するという特性をもっている。このため、一度汚染された土壤を浄化、回復することは困難とされていたが、最近、汚染土壤の浄化法として電気浸透法などの新しい試みがなされるようになった。汚染土壤の法制度として2003年に土壤汚染対策法が施行された。

(古澤)